

# 話<sup>わ</sup>じやれ (14)

岐久 ようこ

心しずめる休所

鯉をたしなむような趣味は

世代を感じるけど

興味のある人にとつて

犬やネコと等しい

メインにしている錦鯉はメス

色白ぼつちやり 丸みをおびていて

「花ブラウスに衣替え？」

「オスならメスに 化けるの？」

そんな今どき

人気ファッションものが泳ぐ

「そろそろ餌やるよ」

ピシッと跳ねて返して

くれるのが「カワイイ！」

鯉は二週間食べずにいても

池で仲良く辛抱強く待つ



傷つけあうとか喧嘩はしない

余分なエネルギー使わない

相手を自分の意思どおりに動かす

そこらが政治家に好まれたか

田中元首相はケンカしないのを見て

「心しずめたのだ！」

何よりも 尾ヒレに柄が なしがいい

お足もと おしゃれな鯉の 薄化粧

## ひとりテレビ局長

ユーチューブなるもの  
対話なしの一人芝居？

動画を作ってインターネット上に公開する  
自分一人で内容を考え取材して演じて  
音楽なんかもつける

その形ができた段階でアップロード作り  
「自分のチャンネルだ！」

テレビ局の主になれたワケ

内容が充実してくると視聴率じゃないけれど  
見てくれる人が増えて人気がでて

「ユーチューバーになれた！」

動画を作っても見てくれる人が少ないと  
そこがなかなかキビシイ

最近の若者は動画が生活の一部

カメラで写したり写されたり慣れていて  
新しい才能どんどん活かせる

子供たち「ユーチューバーになりたい」

あこがれの職業

自発的に出るくしゃみ

「ハクシヨン！」  
ツイッターとかで  
噂になってるぞ！

バツタ 雨にも負けず やってみな  
うさぎ 風にも負けず できっこない



笑顔のハッピー姿みせて

タラップを降りるビートルズ  
メンバーの全員がスーツの上に羽織って  
ファンに手を振っていた  
機内で「コレ着て下さい」

「なにコレ？」

「ハッピーなの」

「おお、ハッピーに通じるね」

一九六六年の来日のころ

一番まとまっていたのかなあ

一九六九年にジョン・レノンが脱退宣言をして

ポール・マッカートニー、ジョージ・ハリソン、

リング・スターがそれぞれの新曲で

再スタートをきった

ジョンは生まれてすぐ父が失踪

再婚した母にかわって

母の姉に育てられた

時々会っていた母が　ジョン十七才のとき

交通事故でなくなる

そんなころ

「父だよ」有名になってから父が現れた

こうした両親との苦悩から生まれた叫びが  
新曲「マザー」

ハッピーじゃあなかったの？

裸の自分をさらけ出したかった

何かしら　ジョンがまさる　一番は  
えんがあり　日本女性の　妻愛でた



## 平成のハスの花

安らぎと極楽への入り口で

迷いが去って心理を開く

「ハスの花の座」

七十才まで欲を断ち切り辛抱の修業を成して

奈良の「薬師寺」の

トップ貫主かんしゅに就いたのち

ホステスとの再会がもたらしたもの

「京都で人目を偲ぶ」となり

「ホテルが混んでいて」となり

性欲禁断の特別区域の座位ながら

約束事を忘れたのかしら？

戒律を破ったかしらね

三十一枚のハスの花実を食べ終える

やがて彼女がとったのが

「これは珍しいニュースになる」

話の種にした

だが相手がド偉い身分を捨てるほどに

なるとは考えもせず

貫主が退山届けを出し寺から離れることに

なつたと聞いて

「あなた弱いですネ」だって

そうかしら 迷い払って 開眼の恋  
人として 貫かれた だけですから

